

7. 甲状腺腫の X 線像とシンチとの関係

○兵頭 春夫 鴻地 尚 板東 一彦
弘津 武久 西山 健一 玉の井敏夫
(徳島大 放)

甲状腺腫の X 線像に石灰化像を認めることはよく知られており、組織像においても 50～100 μ 程度の石灰化粒が癌腫の際散見されることは以前より知られている。秋貞ら(1971)は軟 X 線を用いて砂粒腫の描写に成功し甲状腺癌の診断に役立てている。我々も昨年末より秋貞らの方法に準じて装置を改良し、現在迄に89症例に軟 X 線撮影を行い RI 診断と対比しているので、石灰化像、砂粒腫について検討を加え報告した。

89症例中シンチ上 cold area, defect を認めたものは37例、石灰化像14例(粗大)、砂粒腫2例である。粗大石灰化像の例は癌腫3例、リーデル腺腫1例、慢性甲状腺炎1例、機能低下1例、機能亢進4例、良性腺腫1例、癌を疑っているが非手術例3例である。手術例で石灰化像を認めないが汙胞状腺癌が1例あった。しかし砂粒腫を認めた2例は共に乳頭状腺癌であり粗大石灰化像が合併していた。砂粒腫は癌診断にアプローチする所見である。

8. 血液疾患における骨髓シンチグラム

○吉岡 溥夫 長谷川 真 岩崎 一郎
(岡山大 2 内)

骨髓造血巣の分布を知ることは、血液疾患における造血の状態を確認するための1つの有用な手段である。我々はこれまで GAMMA camera と ^{99m}Tc -硫黄コロイドを用いて骨髓シンチグラムを作製し、骨髓造血巣の分布を研究し、その有用性を述べてきた。しかし成績の判定は描出画像の陰影濃度によるしかなく、その解釈が困難であり、また定量化にも問題があった。そこで我々はその一解決法として computer を利用したのでその結果を報告する。

GAMMA camera に磁気テープ記憶装置を接続し、camera で撮影と同時に、一定時間テープに記憶させ、再生画像の適当な部に全視野の約1%にあたる ROI を設定し、counting を行う。

これを cpm に換算し、投与量と対比して各部分の放射能の分布比を求めた。

その結果をシンチグラム像に影響を及ぼすと思われる、congoed 係数、末梢赤血球数、骨髓有核細胞数及び骨髓赤芽球%などと比較検討した。

9. ^{169}Yb -citrate による腫瘍シンチグラフィ

—特に X 線所見、剖検所見との対比

○平木 祥夫 田辺 正忠 玉井 豊里
山本 道夫
(岡山大 放)

^{169}Yb -citrate は癌親和性を有し、その陽性描画に役立つとの久田らの報告がある。私共は、約40症例の悪性腫瘍患者に ^{169}Yb -citrate を投与し(約300 μCi 静注)臨床的有用性を追試検討している。撮像は静注1日、3日、5日後にシンチスキャナーシンチカメラを用いて行ない、必要に応じコンピューターによる画像処理、定量的表示を行っている。最近、 ^{169}Yb -citrate 検査悪性腫瘍患者で剖検しえた2症例について、そのシンチグラムと X 線所見を対比したところ、骨に X 線写真上では指摘できないような変化がシンチグラムで明らかな RI 陽性集積像として認められていた。 ^{169}Yb -citrate は原発腫瘍の診断のみでなく、同時に骨転移の早期検出が期待でき有用と思われる。

10. 脾臓シンチグラフィによる脾疾患の鑑別

○田辺 正忠 玉井 豊理 平木 祥夫
山本 道夫
(岡山大 放)

シンチグラム所見により、慢性脾炎と脾癌の鑑別の問題点について検討する。